



中東とは日本にとって
どんな地域なのだろうか。
日本の支援を通して
中東の今の姿を描きます。

今月のテーマ

中東地域

答えてくれた人



外務省 国際協力局
国別開発協力第三課長
黒宮貴義(くろみや・たかよし)さん
1996年外務省入省。エジプトでのアラビア語研修を経て、ヨルダン、イラク(2回)、カンボジアに勤務。外務本省では中東アフリカ局、国際協力局などで勤務し、2019年9月から現職。資源エネルギー庁への出向経験もあり。

Q1 中東ってどんな地域? A1 エネルギー資源が豊富で、 潜在力に満ちています。

中東あるいは中東・北アフリカは、歴史的、文化的、宗教的につながりがある地域です。中東と聞いてまず思い浮かべるのは、石油などのエネルギー資源の宝庫ということでしょう。世界の原油埋蔵量のおよそ半分がこの地域にあり、日本は原油の約8割、液化天然ガスの約2割を中東から輸入しています。アラビア半島周辺からは、エネルギー資源の多くが海路で世界中に運ばれていて、スエズ運河、ホルムズ海峡などは海洋通商路の要衝となっています。

中東地域の総人口は約4.4億人。人口増加率は過去10年間で17.3パーセントと高く、とくに若年層が増えています。一人当たりのGDP(国内総生産)は6,390ドルで、経済成長率は5.1パーセント*。おおむね中所得国で、潤沢なオイルマネーを背景に、都市化や中間層・富裕層の拡大が進む国がある一方、若者の失業率の高さが問題となっている国もあります。しかし、潜在的な伸びしろを感じさせる、若い力が溢れている地域です。

*出典:国際通貨基金データベース

Q2 中東に開発課題はあるの? A2 国によって異なる課題があり、 それに沿った支援を行っています。

日本がエネルギー資源の多くを頼っている中東地域では緊張が高まっており、また紛争もあります。いったん物流が不安定になれば原油価格は高騰し、日本を含む世界中に大きな影響を及ぼします。この地域の発展と安定は日本にとっても最重要課題で、さまざまな協力を行ってきました。

して一直線ではありません。三つめはエジプトやモロッコ、ヨルダンなど比較的安定している国々です。まだODA(政府開発援助)を必要としています。経済成長に必要な民間企業の経済活動の支援、彼ら自身がドナーとなるための能力向上を目的とした協力も行っています。

中東への支援は、国の状況に応じて三つの重点分野に分けられます。シリアやイエメンなど紛争中の国に対しては、紛争終結に向けた外交努力を続けると同時に、それぞれの国の人々に向けて食料支援、難民支援など、「人間の安全保障」を守るために力を尽くしています。日本が独自に行う支援もありますが、国際機関と協力しながら行うこともあります。

一方、イラクのような紛争後の国に必要なのは復興支援や平和構築です。紛争の負の遺産ともいえる地雷やIEDの除去、インフラの整備、政治体制の安定など取り組むべきことはたくさんありますが、まだ内政が混乱していたり、イスラム過激派組織によるテロの脅威も残っていたりして、復興への道はけっ

A3 ③ 具体的にはどんな支援を行っていますか? ③ 難民支援、戦後復興、民族融和などに取り組んでいます。

日本は中東地域でさまざまなODAを行っています。そのなかから3か国での支援を紹介します。

「アラブの春」以降内戦が長期化し、多数の難民・国内避難民が生まれているシリア。ここで日本が行っているのがシリア人留学生の受け入れです。これは内戦で就学機会を奪われた若者に教育の機会を提供するプログラムで、JICAの技術協力「シリア平和の架け橋・人材育成プログラム」(JISR、12～13ページ参照)などを活用し、5年間で最大150人を留学生として受け入れます。2017年からスタートし、留学後に母国で活躍したり、日本に残りシリアとの架け橋となったりしたいという若者を輩出しています。

フセイン政権後の混乱から復興へ歩んでいるイラクでは、無償資金協力や円借款、技術協力などを活用し、まず道路や電力、水道、

灌漑などのインフラ整備、そして保健、教育、人材育成などの支援を行っています。かつて1980年代には6,000人あまりの日本人が駐在していたイラクは親日的で、日本の企業を誘致して、技術を取り入れたいという思いがあります。比較的安定している地域にはすでに進出している日本企業もあり、今後つながりの強化が期待されます。

最後に紹介するのは、長年にわたり対立してきたイスラエルとパレスチナの融和を図り、周辺地域の安定とパレスチナの経済的自立をうながす「平和と繁栄の回廊」構想です。その象徴的な事業となる「ジェリコ農産加工団地(JAIP)」では、パレスチナの民間企業15社が操業し、さらに17社の入居が決まっています。これは宗教的に中立で、両国と公平に外交を展開してきた日本だからできた独自の貢献です。



来日前のJISR第2期留学生と家族を対象に、日本大使館主催で壮行会が行われた。



JISR第3期生の壮行会。留学生とその家族が集まった。



パレスチナに建設されたJAIP(写真提供:在ラマツラ出張駐在官事務所)。



イラク全土の中で、農業が重要な地域において農業生産性を向上させるための円借款「灌漑セクターローン」で建設された灌漑施設。